

第1回北秋田市総合戦略検証会議 会議録

日時：平成28年12月19日 13時30分～16時15分

場所：北秋田市本庁舎 大会議室（3F）

【決定事項】

- ・濱田純委員を座長、保坂委員を職務代理人とする
- ・第2回は平成29年1月19日の午後1時30分からとする。

【会議の概要】

1. 委嘱状交付

－市長より各委員に委嘱状交付－

2. 市長挨拶

3. 委員・事務局の紹介

－各委員より名前、所属等の挨拶－

－事務局よりオブザーバー、事務局の紹介－

4. 座長及び職務代理人の選出

－事務局より総合戦略検証会議について説明－

- ・座長を濱田純委員、職務代理人を保坂英明委員とする。

5. 事務局説明

－事務局より資料4について説明－

－委員より資料の具体的説明の依頼があったので、各部長等より目標値に達成しなかった項目を中心に説明を行った後に質疑応答を行った。

〈各部長等の説明概要〉 ※（ ）内の数値は資料4の効果検証シートNO

総務部長：

内陸線の乗車人数について（61）

沿線人口の減少を観光人口で補おうとして進めているが、内陸線に乗っていただく他に
行きつく目的地に対する魅力的な取組がまだまだ足りないという感覚を持っている。

路線バス・デマンドタクシーの輸送人員について（62）

どうしても市として政策的に子どもの安全を守るために、学校統合の際に路線バスを使

っていた子供がスクールバス化となって使わなくなったこともある。

今後、小中学校の統合等が重なると、人口減とともに利用対象者が減って行ってしまうので、計画年度内にさらに目標値の見直しが必要になると思われる。

災害に備えて何かしらの準備をしている市民の割合について (64)

市でもいろいろ研修会や防災組織の設立の手段を講じているがまだまだのところであるのでもう少し工夫していきたい。

防災情報メール登録者について (65)

防災無線が老朽化して中々情報が伝わらない中で有効な手段として進めているが、なかなか進まない。携帯電話を持っている方にどうやって伝えていくか。企業や団体を中心に声掛けをしていきたいと考えている。

自主防災組織の結成数について (66)

力不足であり申し訳なく思っている。いろいろな防災訓練や講習会で再度促していきたいし、補助制度を1回でなく何回でも使えるようにするなど、もう少し使いやすくしていきたいと考えている。

市民生活部長

家庭ごみ一日一人当たりの排出量について (98)

人口減少に伴いごみの総量が減少傾向だが、一人あたりだとなかなか減っていない実態である。ゴミの分け方などを出前講座で広めているが減少に結びついていない。窓口で感じるのは、高齢者世帯が増えている中でその家に誰もいなくなったということでもとめての片付けを行っている方も見受けられておりなかなか減らないではないかとも思っている。引き続きの取り組みが必要と感じている。

不法投棄について (100)

一時期に比べては減少していると感じているが生活用品なども含めてまだまだ見られる。監視員を配置してパトロールに勤めているがポイ捨てが増えてきていると感じている。モラルの問題が大きいと思っているが、呼びかけて取り組みを強めたい。

地球温暖化の推進について (102)

市民に訴えていくことしかないと思っている。

交通・防犯指導隊員数について (119)

交通指導隊員の欠員の補充が難しいのがここ数年続いているのが現状である。大変な仕事であるが引き続き努力していく必要があると思っている。

交通事故件数等について (120-122)

関係団体と取り組みを進めているが、特に高齢者を対象とした取組が求められるのではと思っている。死亡事故は歩行者が無くなる事故が相次いでいる。特に日が短くなってからの夕暮れ時の事故が多かった。反射材の取り組みなどをもっと強めていかなければと思っている。

犯罪件数について (123)

窃盗犯の割合が多いが、地域との協力で進めることが必要だと思っているので、みんなで防ぐ努力が必要と感じている。

消費生活に関する講座、研修会参加者数について (124)

出前講座を行っているので、ぜひ地域の団体等にも取り組みを図りたい。

健康福祉部長：

子育てに関して気軽に相談できる人がいる保護者の割合について (37)

子育て支援計画において3年経過後の中間評価としていることから、計画策定前のニーズ調査の結果となる。今後は市民意識調査を使って新たに目標設定できればと思っている。

健診受診率について (70)

特定健診の受信率を上げていく取り組みがまだまだ必要である。

がん検診受診率について (71)

中々高まって行っていない。普及啓発を行っていくとともに、コンビニ検診を参考にしながら高めていきたい。

健康診断を受けている市民の割合について (74)

目標設定調整中としている。現状は市民意識調査の結果としているがこれでいいのかということ部内で議論しているところ。国保や後期高齢者については把握できるが社保や共済、医師国保などの医療保険加入者も含めて把握する場合にどうすれば良いのかを議論しており目標値の変更が予定されているところである。

福祉施設入所者数について (82)

実績値を153人から148人へ変更する（救護施設入所者も含んでいたため）。

バリアフリー対象施設について (85)

市内の公共施設は82施設あるが、基準の6項目をクリアしているのが16施設となる。これは県調査結果であり、今年度の実績がまだ出ていないので同じ数値となっている。部内では県調査を待たずに独自調査を行う事について検討している。

産業部長：

新規就農者数について (5)

実施主体が農家なのでPRを進めたい。

森林経営計画策定率等について (8、11、13)

林業経営計画策定について経営計画が実施されないとその他の各林業補助事業が実施されないなので、この充実と事業のPRを行っていきたい。

観光客数について (20)

天候で人の出入りに影響があったが大幅な落ち込みがあったとは考えていない。今後は滞留型観光の推進を推進していきたい。

建設部長：

公営住宅のバリアフリー化の割合、公営住宅等の入居率について (53,54)

目標値と実績値にはわずかな隔たりしかない。計算の基礎となる公営住宅の数 578 棟の内、政策的空き家 29 棟が含まれている。これを除くと目標値はおおむねクリアしている。
住宅耐震化率について (56)

あくまでも国基準（昭和 56 年以前の建築物）による推計値であり、本当の数値は誰も分らない。築後 30 年以上となりほとんどが建て替え時期となっている他、リフォーム補助金が 2445 棟の実績があり、対象となる家屋の 53%となっている。耐震診断・耐震設計・耐震工事の補助事業もあるが、少し複雑であることから実績がない。しかし、リフォーム補助金での事業を行う際にはその他の危険な個所への補強も行っているとのことなので、実態はつかめないものの耐震化へのある程度は対応されていると認識している。

市道の改良率と舗装率、緊急度の高い道路の舗装率について (104)

過疎化が進むにしたがって、地域に必要な道路とは生活道路の安心安全になっている。舗装改良には国の交付金が簡単に出なくなった。今まである橋やトンネルの老朽化への補修にはつきやすいが、新しい道路については厳しい状況である。

下水道の水洗化率、経費回収率、合併浄化処理層の設置について (108-110)

大きな問題は高齢化。せっかく下水道整備しても後継者がいない世帯の場合では、なかなか接続を行わないという現状がある。

上水道簡易水道の有水率について (111)

簡易水道は各地区老朽化している。合川森吉の簡易水道統合事業が来年度完了することからある程度解消できる。その他の地区は計画的な配管改修などに取り組みたい

生涯学習課長：

北秋田市民ふれあいプラザ利用者数について (47)

平成 27 年度の実績は中央公民館についてである。実際の利用は少なかったが、目標値は 5 年後の 3 割増としている。ふれあいプラザは 7 か月で 3 万 5 千人の利用者であるので今年度は目標達成できると見込んでいる。

自主講座への移行数について。(48)

1 公民館 1 講座を目標としている。実績は阿仁大阿仁前田のみであったので、他の公民館に働きかけたい。

自主講座を担当する市民の数について (49)

累計ではあるが、過去に講師をやっていて辞めた人も含まれてしまうので、単年度の実績にしていくように目標値を見直したいと考えている。

学校支援地域コーディネーター数について (51)

全小中学校にいることから大変充実していると評価されている。学校によって人によっ

て様々な事情があるので、学校の要望に応じて柔軟に対応していることから、増やす目標ではあるが柔軟に対応したい。

学校支援地域コーディネーターのボランティア数について (52)

各学校に登録してもらっていただければよいが、様々な支援の仕方があり、一人の人が複数の活動に参加してもらえれば把握できないので、今後は延べ人数で把握していきたいと考えている。

伊勢堂岱遺跡を見学したことがある市民の割合について (89)

これまで見学環境事業として遺跡を閉鎖していたこと、縄文館がオープンしたことから通年で受け入れることから今後増えていくと思われるので期待したい。

伊勢堂岱遺跡に関連するイベントや団体に協力している市民の割合について (90)

ジュニアボランティア、カムバックサーモンなど様々なイベント行う事で増やしてきた。

芸術文化協会への加入団体数について (91)

会員は高齢化等で減少傾向があり、同じような活動をしているところは合併しているところもある。一方新規に立ち上げているところもあるので現状維持できるようにしていきたい。

祭りや地域イベントへ参加したことがある市民の割合について (92)

様々なイベントについて開催を周知徹底していきたい。N093 も同様に意欲のある方に声掛けしていきたい。

スポーツ振興課長：

学校生活に満足している児童（生徒）の割合について (86)

より満足度を高めるため、教育センターでの各部会の研修の活用や自己有用感の育成として、各家庭や地域での声掛けを行うことで満足度を高めていきたい。

県学習状況調査における正答率について (88)

一部マイナスが見られるが、教育センターでの研修をさらに充実させていきたい。

スポーツ施設利用者数について (94)

3年ほど23万人を推移している。人口減少の中で、現状を推移しているのでこのまま維持していきたい。

運動・スポーツを月に数回以上する市民の割合について (96)

中々数値が伸びてこない。チャレンジデーなどでの啓発活動を前より行っているが、ニュースポーツなど、より市民にスポーツを知ってもらえるよう働きかけたい。

消防長：

救急救命講習会を受講したことがある市民の割合について (113)

普通救命講習と一般救命講習があり、一般救命講習は毎年あわせて1,000人を達成して

いるが、時間はかかるが普通救命講習を推進していきたいと考えている。学校や企業などの団体が計画的に受講してくれているので、さらに盛り上げてもらいたいし、普及啓発に努めたい。自治会等の自主防災組織にも呼びかけて行きたい。

火災報知器未設置の世帯数について（114）

毎年 100 世帯を無作為に調査している。引き続き様々な角度から設置を要望していく。

火災発生件数について（115）

ここ数年 20 から 30 件発生している。本来ならゼロ件を目指すところであるが、引き続き火災予防に努めたい。

火災による死者数について（116）

残念ながら 1 名発生してしまった。火災報知機の設置とともに予防に努めたい。

救急救命士数について（117）

現在 25 名の資格所有者で実働が 23 名という現状。毎年 2 名の研修を実施し国家試験の全員合格を目指している。

消防団員数について（118）

合併当初から減少が毎年続いている。婦人消防協力隊が平成 26 年度に消防団に移行した（40 名）。あわせて 756 名となる。毎年 10-20 名が退職等している現状なので市職員等や様々な団体に出向いて勧誘を行っているところである。

質疑応答

小塚委員) N065 について。防災情報メールの登録者数について、2090 人の目標で実績が 1938 人。なかなか広がっていない。保育園で一斉メールをつかっている世帯数 114 世帯、市内の保育園も全て一斉メールをやっている。これを上手く取り込めればどうかと思う。

小学校でも全部一斉メールを配信しているのでそれも含めればどうか。それを含めての数値なのかどうか？

総務部長) そこまでは含んでいない。一斉に流すとなると個々でやっているのと市でやっているのをつなげないといけないので簡単にはいかない。ここで行っている団体を通じて個人個人のメールアドレスを登録していただく体制を考えている。それぞれ独立しているのでそれをつなげると時間とお金がかかる。

小塚委員) 市から入ってくる前に県等からくるようになっている。その連携をしっかりとできればこの数値にプラスとなるのでは。いろんな防災システムに活かされるのではないか？

座長) 一旦中継したものを含めれば結構いい数字となる。いいアイデアである。

小坂委員) N041 少子化対策について。女性管理職員の割合目標値について秋田県や全国での割合はどれくらいになるのか？

総務部長) 数値は持っていないが最終的には 3 割ぐらいになるのではと記憶している。

小坂委員) あまりにも市の目標と差があるのでは

総務部長) 現状としては現実を見るということになっている。

小坂委員) やりがいを考えないといけないと思う。北都銀行では 81 人いて 20 人が女性支店長である。はじめはかなり危機感があったが、やってみれば銀行という非常識な社会に常識が出てきたと感じている。ぜひ目標値は上げたほうが良いと感じた。

花田委員) 検証シートの見方について。総合計画の目標値は 10 年後、総合戦略は 5 年後で違う。総合戦略や総合計画には現状値がついているが、検証シートには載っていない。載っていれば分かりやすいと思う。

データの取り方として、N049 の項目では現状値 350 人に対して実績値 115 人と値が減っている。また、No52 の項目では目標値 608 人で目標値 19800 人と乖離があるがこれはどういうことか？

事務局) 総合計画・総合戦略は 26 年度の現状値を表記している。検証シートに現状値が掲載されていない点についてはご指摘のとおりなので次回以降検討したい。総合計画では総合戦略のように単年度ごとの目標値を設けていないので、今回の実績値と目標値には差があることをご了承いただきたい。

生涯学習課長) N049 の自主講座の講師について、公民館以外で行われている講座の把握が難しいことから公民館ベースでの現状把握とすることにしたもの。N052 については、目標値は実数としていたが、各学校からは実際活動した延べ人数でのカウントとなることから、この方法で把握することで検討している。

座長) 目標値との把握に整合性が無いのでは。

生涯学習課長) その点を踏まえて目標値の修正を検討しているところである。

津谷委員) N058 自宅の除雪について困っている市民の割合の実績 21.8%という目標は低くないか？除雪車が残した硬い雪の処理も自宅の除雪になるのか。

ゴミ収集車が市民歌を流してくれてとても身近になってきたし収集車が来たという気づきになっている。とても感謝している。

建設部長) 市民アンケートの結果となり、これには地域差がある。他の地域にはあるが鷹巣地区には融雪溝が無い。間口の雪について一番苦情があるのが鷹巣地区の街中になる。状況は十分把握しており、2・3年前から極め細やかな除雪対応をしている。例えば除雪は夜中の 2 時スタートで通勤通学の迷惑とならないようにしたり、なるべく間口に雪を残さないようにしているところであるが、歩道や段差の関係で不可能な地域もある。住民説明会にて対応しているところだがご理解をいただきたい。

相場委員) N089 伊勢堂岱遺跡について。遺跡を見学したことの市民の割合という目標についてはどういうことか？今後見学者が増加することが見込まれると思うが、芸術文化分野ではあるが、誘客促進による交流人口増加の強力なツールとなると認識している。生涯学習課所管ではあるが、もう 1 つハードルを上げて観光資源として部局横断して観光資源としても取り組んでもらいたい。

内陸線沿線の乗客向上、さらには鷹巣西道路などの交通事情の変化による誘客ルート、市全市民の割合のみならず、観光客の割合という目標にでもなればと思っている。

建設部長) 日沿道関係での観光資源のストック効果としての活用を検討しており、北東北遺跡群としての取り組みや函館から大館北秋田角館への誘客の流れが作れるように取り組んでいる。商工観光課や教育委員会も巻き込んで展開していきたいと考えている。

福原委員) 伊勢堂岱遺跡について、標識が分かりにくい。車で行くと片側しか標識が無い。分かりやすくして欲しい。目標値について、総合計画と総合戦略で微妙に違うのはなぜか？生涯学習課長) 伊勢堂岱遺跡の看板について、4方向に設置しているところ。日沿道の建設状況にあわせて新たな対策を立てたい。

事務局) 総合計画と総合戦略は、策定期間と実施期間が異なっていることから、目標値が必ずしも一致しないものであることをご理解いただきたい。

小塚委員) 総合計画の目標人口について、高齢化率が36.4%とあるが、今は40%を越えている状況であるはず。このあたりの数値の考え方はどうか。

N083 の福祉施設からの一般就労への移行者数について、ここでいう一般就労の意味とは何か？グループホームから一般就労している人もいるのに実績値がゼロとなっているのはなぜか？また、フルタイムなのかパートの方も含めるのか。何か現実とかけ離れている気がする。

事務局) 目標人口の数値については、文言を作成した当時の数値は平成22年国勢調査のものを使用しており、平成27年国勢調査の数値は間に合わなかったことによる。

健康福祉部長) 一般就労とは通常の正規社員としてフルタイムで働ける人を意味している。施設からの就労はなかなか難しいということであるが目指して行きたいというもの。

藤田委員) 我々の意味合いでの一般就労とは、雇用契約を結んだ就労をいう。ここでは、福祉的就労から一般的就労ということさをさすと認識していた。一般就労とは雇用契約を結び、時間の長短や正規非正規は関係ないのが我々サイドでいう一般就労である。

野宮委員) 市民への発信方法として、広報やホームページの他にどのような発信方法があるのか？活字で読むのが大変な方が多いので。

総務部長) ペーパーを読むのが大変な方も多くなっていると認識している。パソコンやSNS以外としては、光通信を使つてのモニタでの発信が考えられるが現時点ではなかなか手が回らない状況。広報を楽しく苦にならないで見てもらえるように検討していきたい。

野宮委員) ごみ収集車で市民歌を流すように、本日のお知らせ・ニュースなどを流していければ市民も興味がわくのではないかと思う。

保坂委員) 効果検証シートで目標と大きく乖離しているものについて、修正目標の設定によりそこに向かっていくという向かうべきところを設定すればよい。

織山委員) N098 の家庭ごみ1日1人あたりの排出量の目標値と実績値の単位について。

市民生活部長) 目標値の251.9kg/人・日は、誤って1年分のゴミの排出量の目標値を計上してしまったもの。690g/人・日へ修正をお願いします。

—事務局より資料5について説明—

ー各部長等より目標値に達成しなかった項目を中心に説明を行った後に質疑応答を行った。

〈各部長等の説明概要〉※NO は資料5のシートNOです

総務部長

内陸線団体と貸切列車への助成について、貸切列車の実績が圧倒的に多かった。貸切列車への助成を今後できないかと評価したところである。

健康福祉部長

N08 保育園保育環境改善事業として、市内11保育園等14の子育て施設へ加湿空気清浄機等を整備した。今後も整備していきたいところなのでそのような評価をした。

産業部長

N01 スーパープレミアム商品券事業は、単なる消費だけではなくある程度耐久性のある水道や電気関係の店舗も加盟店として参加し、4億5千万の実績があった。今後の方向としては、市の財源の関係上、プレミアム率の変更も踏まえながら検討していきたい。N02 スーパープレミアム宿泊券事業は、改善して事業継続していきたいとしており、これに変わるものとして、来年1月から宿泊に対する事業の実施を予定している。

N06 農産物販路拡大事業として市内農家の育成に取り組んだ。今年度予算においても単独事業として実施している。

N07 観光PR事業としてWi-Fiの設置を行ったが、これは今年度も継続して実施している。

質疑応答

座長) 市民意識調査は悉皆なのかパーセントか？

事務局) 毎年度無作為抽出の1千人。地域も考慮している。回答者の負担も考慮し、設問数を増やすことは基本的には考えていない。

座長) 市民意識調査結果を使うのであれば、その抽出パーセントや対象者数を明記したほうが良い。

以上